

転換期を迎えたマネジメントシステム

JQAと第三者認証制度への期待 品質編

JQAは1989年に、ISO9000の審査登録業務を開始して以来、中立かつ公正な審査を通じて産業界の健全な発展に寄与してきました。中でも、ISO9001、ISO14001をはじめとするマネジメントシステムの分野において豊富な実績を積み重ね、わが国の審査登録機関をリードする地位を確立しています。

この間、ISOマネジメントシステムは日本でも急速に普及し、PDCAを組織の隅々まで浸透させることによって経営改善に成功した事例が多く見受けられるようになりました。しかしながらその一方で、認証取得が必ずしも経営課題の解決に結び付かないという声も聞こえてきます。

そこで今年度のISO NETWORKでは、ISOマネジメントシステム及びJQAの今後の審査のあり方を考える特集を、4回シリーズで掲載していきます。第1回目は「転換期を迎えたマネジメントシステム」と題し、JQAのISO諮問委員会の委員長を務めていただいている早稲田大学理工学部の棟近雅彦教授のインタビュー及び、JQAに寄せられた登録企業からのご意見と取材を通じて浮き彫りになった課題などを織り交ぜながら、ISO9001の今後、そしてJQAの審査に対する基本的な考え方をご紹介します。

社会から真に必要とされるISO9001をめざして
早稲田大学棟近教授インタビュー

JQAが企業の期待に応え、
信頼を獲得するために